

7月9日 逍遙



今日7月9日は、薩摩藩主・島津斉彬が、日本船を外国船と区別するため、「日本国」の総船印として幕府に提案したとされる「日の丸」の採用を幕府が決定した日です。「日本国」という意識自体がまだ薄かった当時、斉彬の提案そのものが「思考の大転換」だったとも言えます。

そして今、地球上の殆どの国や地域が例外なく新型コロナウイルスとの共存を余儀なくされ、しかも人間としての最も重要なコミュニケーション手段(=人が集まり、相手の表情や仕草などからお互いの気持ちを理解し合い、共鳴し合うこと)が制約を受ける新時代が到来した以上、今後は「かつてのパンデミック後の人類の成功体験(=地球上に残された従来型の「成長」分野をかき集めながら再興を目指す、というこれまでのやり方)」の羅列にとらわれるのではなく、むしろ、かつての薩摩のリーダー・斉彬が提案した「日本国」の如き「思考の大転換」が必要なのでは？

社会にしる、経済にしる、「〇〇ファースト」だけではもはや通用しないのかもしれない。

次回「信頼と共鳴はいつの時代にも、のこころ」

「新時代の到来と 思考の大転換、のこころ」